

1. 日米株式と円/ドルの推移

<日本株(日経平均)>



<米国株(NYダウ)>



<円/ドル>



(注)チャートは過去1年

	単位	2024/12/31	2025/10/31	2025/10/31	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	39,894.54	52,411.34	52,411.34	52,411.34	2025/10/31	25,661.89	2023/1/4
NYダウ	ドル	42,544.22	47,562.87	47,562.87	48,040.64	2025/10/29	31,429.82	2023/3/15
円/ドル	円	157.20	153.99	153.99	161.95	2024/7/3	127.23	2023/1/16

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

~ 日米金融政策の内容やAI関連銘柄の好決算などを受けて上昇 ~

先週の日本株市場は、日経平均が+3,111.69円(+6.31%)、TOPIXが+62.38ポイント(+1.91%)となり、日米金融政策の内容やAI(人工知能)関連銘柄の好決算などを受けて上昇しました。業種別で見ると非鉄金属、電気機器、情報・通信業などの16業種が上昇した一方、パルプ・紙、サービス業、繊維製品など17業種が下落しました。

27日は、先々週末に発表された9月の米CPI(消費者物価指数)の内容を受けて米ハイテク株が上昇したことを背景に、国内のAI関連銘柄に買いが集まり上昇しました。28日は、為替の円高ドル安進行が重荷となり、3営業日ぶりに反落しました。29日は、今期業績見通しを上方修正した大手半導体関連企業の決算内容などが好感され相場を下支えしたものの、急ピッチでの上昇に対する高値警戒感が意識されたことなどから、小幅な続落となりました。30日は、FOMC(米連邦公開市場委員会)後のパウエルFRB(米連邦準備理事会)議長の記者会見が12月FOMCでの利下げ期待を後退させる内容だったことが上値抑制に働いたものの、日銀が金融政策決定会合で政策金利を据え置いたことによる円安進行が好感され、3日ぶりに反発しました。31日は、前日の金融政策決定会合後の植田日銀総裁の会見内容がハト派的だったことなどから、続伸して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
11月4日	Tue	米国	貿易収支 JOLTS求人数	9月	—
11月5日	Wed	ドイツ	製造業受注(前月比)	9月	▲0.8%
		米国	ISM非製造業景況指数 ADP雇用統計	10月	5000.0% ▲3.2万件
11月6日	Thu	日本	毎月勤労統計-現金給与総額(前年比)	9月	+1.3%
		ドイツ	鉱工業生産(前月比)	9月	▲4.3%
		欧州	小売売上高(前月比)	9月	+0.1%
11月7日	Fri	米国	非農業部門雇用者数変化 ミシガン大学消費者信頼感指数	10月	— 53.6

注意: 米国の政府機関の一部閉鎖に伴い、米国経済指標の発表日が変更になる可能性があります。

決算発表予定 他	国内	海外
	決算発表:	決算発表:
	11/4 丸紅、大和証券G、商船三井、三菱商事、住友化学、NTT、LINEヤフー、横河電、JR西日本、任天堂 11/5 三井物産、大林組、イーザイ、AGC、伊藤忠、ヤマハ発動機、旭化成、川崎汽船、日本製鉄、サンリオ、ソフトバンク、シスメックス、ダイキン、エフソン、アズビル、トヨタ 11/6 パナソニックHD、郵船、IHI、JFEホールディングス、スズキ、富士フイルムHD、リクルートHD、味の素、ミネベア、スクエニHD、ローム、花王、日テレHD、KDDI、日産 11/7 Food、&、Life、王子HLD、清水建設、三菱重工、クボタ、フジクラ、東急HD、東京センテック、三井不動産、マクドナルドHD、ホンダ、オリンパス、しずおかF、リコー、千葉銀行、SGホールディングス、島津製、ホシザキ、オムロン、ユニチャーム、キッコーマン	11/4 ウーバー、スホティファイ、ファイザー、アドバンスド・マイクロ・デバイス、AIG、スーパー・マイクロ・コンピューター、アフラック、フェラーリ、BP 11/5 マクドナルド、メットライフ、アップラビ、ロビンフッド・マーケット、ドアタック、アルコム、アーム・ホールディングス、ノバルティス、BMW 11/6 エアビーアントビー、マイクロチップ、テイクツー・インタラクティブ・ソフトウェア、アストラゼネカ、コムツ銀行、ラインメタル 11/7 KKR

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

~ 高値警戒感が意識されるものの、国内企業業績の底堅さを好感し、緩やかに上昇 ~

今週の日本株市場は、高値警戒感が意識されるものの、国内企業業績の底堅さを好感し、緩やかに上昇するとみえます。今週は、国内企業の中間期決算が本格化しますが、先週末までに発表された決算では市場予想を上回る業績を発表する企業が多くみられています。この流れが継続するとともに、企業経営者から先行きの業績に対する不透明感が和らいだとの意見が優勢となれば、来期以降の業績改善期待が高まり、現状やや高めでの推移しているバリュエーションを正当化するとみえています。また、海外でも半導体大手の決算が相次ぎますが、これらの決算が堅調な内容となればグローバルでのAI関連銘柄に牽引される株面上昇トレンドが継続するとみえています。なお、先週開催されたFOMC後のパウエルFRB議長の記者会見がタカ派的と評価された一方で、日銀金融政策決定会合後の植田日銀総裁の記者会見はややハト派的な印象であったことは、為替面でも円安ドル高方向に作用するとみられることも日本企業の業績に対する安心材料とみえます。その他の注目材料として、日本では6日の毎月勤労統計、米国では5日のISM非製造業景況指数、ADP雇用統計、7日のミシガン大学消費者信頼感指数、欧州では6日の小売売上高、ドイツでは5日の製造業受注、6日の鉱工業生産などが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント URL: <https://www.alamco.co.jp>

商号等: 朝日ライフ アセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号  
加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント(以下、「当社」といいます。))が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。